

OMC事務局 〒560-0085 豊中市上新田4-16-1-33 合原 一夫 TEL06-6833-9227
 広報編集局 〒573-1171 枚方市三栗1-18-20 前田 茂夫 TEL072-850-5781

<http://www.ne.jp/asahi/smaeda/12/>

平成15年3月(2003年) No. 447

恒例の一泊撮影会は5月2～3日 『無形民俗文化財・日野祭り』

今年の撮影会は、どこにしようかと検討を重ねてきましたが、動きのあるものをメインに据えた方が作品としてまとめやすい、との声により滋賀県南部の日野町の日野祭に絞り込みました。去る3月2日の日曜日、関企画担当世話役に前田、合原の両氏、それに車を出していただいた岡本氏と4人でロケハンをしてきました。

日野祭りは、県の無形民俗文化財で、800年の歴史がある由緒ある祭りですが、全国的にはあまり知られていない祭りです。5月2日(金)の宵祭りには、各町内の屋台小屋から曳き出された屋台に堤燈を飾り笛、太鼓で賑やかに祭りの前夜祭をすごします。祭り本番の5月3日(土・祭日)は、馬見岡綿向神社へ豪華に飾られた十数基の屋台(曳山)が集合します。

一方、3基の大きな神輿は、神社から出発し町内を練り歩いてお旅所へと向かいます。町内の旧家では江戸の町並みそのままに、格子窓の下に赤い布を飾った見物席をしつらえて祭り行列を見物します。

撮影対象としては、宵宮から翌朝の神社への曳山の集合、神輿の練り歩き(独特の所作あり)と旧家からの見物客などが挙げられます。

また、日野は近江商人の活躍した町であり、近江日野商人館には、それらゆかりのある物が展示されており、撮影の許可も得ています。古い旧家のたたずまいと共に、祭り本番前の町の雰囲気伝える映像として、十分活かせる筈です。奥さん共々、多数のご参加をお待ちしています。

3月例会のお知らせ

3月例会は、第4土曜22日18時より、梅田の大阪駅前第2ビル5階、大阪市立総合学習センターにて開催します。季節もよし、月1回の楽しい集いにどうぞお出かけください。資料などの配布と説明がありますので是非出席してください。参加申込みの受付と参加費(15,000円)の申受けも行います。

日野撮影会 ロケハン雑感

合原一夫

名神高速竜王インターより、何度か迷いながらどうやら着いた日野町。大阪からおよそ2時間半要していた。あたりは田園地帯で近江米の産地という。途中、琵琶湖空港誘致の看板が風雨にさらされてるのが目についた。

町へ入ると、最近のプレハブ住宅や古くからの格子窓のある家とが入りまじりあった、新旧混合のちぐはぐな町並みがあった。風致地区指定などで、もう少し観光的にも、計画的な町並み保存が出来ないものかと思った。独得の板塀とベンガラの朱が目についた。部分的に撮影のポイントとしてねらえるところは随所にあった。

日野は近江商人として知られた町であり豪商の館が、そのまま商人館として展示物になっていた。日野商人の歴史や業績、行商道具、写真などが展示されていた。撮影許可を求めると、撮影会当日は、ガラス戸を開けライティングもOKという許しが出た。

日野商人の銅像が日野小学校校門の横に建立されていたが、これなど作品の中に使えそうだ。

さて、日野祭の舞台となる馬見岡綿向(うまみおかわたむき)神社は、町のはずれにあった。各町内ごとに持っている曳山を、当日ここに集めるとあって、かなり広い境内だ。祭り当日は、曳山と人とでござったがえす賑やかな広場になるに違いない。神社も相当古いもので立派なたたずまいと共に威厳があった。

ここから数十人でかつぐ大神輿が3基でるといふ。先頭にほうきで道を掃くような独特な所作の行列が古式豊かに歩く姿が、日野商人館での展示パネルにあった。通りの古い旧家では、祭り見物のために造られたという独特の棧敷窓が、その真赤な布とともに絵になりそう。撮影のポイントとしては、この棧敷窓と、その前を通る大神輿とかつぎ手の熱気か。

神輿の終点になるお旅所まではかなり遠い。お旅所といっても単なる広場みたいなところだから、最後まで撮影のお付き合い

をするまでもなからう。聞くところによると夕方になるらしい。普段は静かな町も、日野祭りの日だけは人があふれるという。

泊まる場所は旅館もあったが、宴会も食事もできるホテルがよかろうと、この町で随一のビジネスホテル・グリーンホテル日野にした。祭りの時は満室になるといい、今ならまだ予約が出来るというので、とりあえず、シングル10室、ツイン2室を仮予約しておいた。参加者が増えたら早めに追加の予約が必要だ。

5月2日は休日ではないので、3、4日と当初は計画していたが、せっかく祭りをメインに撮るなら宵祭りから祭り当日の午前中も撮りたいと、止むを得ず2、3日の両日にした。しかし勤めの都合で2日朝から出られない人は、仕事が終わってから電車で日野まで来て頂き、駅前タクシーでホテルへ直行してもらえれば、翌日は朝から撮影ができるので、申し出て頂きたい。またホテルには駐車場もあるので、車での参加も可能。約2時間半程度の所要時間。

良枝さんが又も快挙

第15回飛騨高山ビデオコンテストに理事入賞されました。おめでとうございます。

●審査員特別賞 「蘇れ 法善寺横丁」

安居良枝さん

2月例会レポート

2月例会は22日18時より梅田の大阪駅前第2ビル大阪市立生涯学習センターにて開催。あいにくの小雨模様で寒い日だったが、会員さん22名、作品11本がでて、ほぼ時間一杯の例会となった。司会は有村氏、書記は関氏、デッキ係は増池氏と江村氏、受付兼照明係は渡辺氏と安居良枝さんで例会を進行した。

■出席者：有村、今井、江村、岩井、岡本、奥、上総、合原、関、那須、西村、玉井、花岡、前田、増池、森下、森口、森、安居夫妻、吉岡、渡辺の22氏。

上映作品(今月の講評は関世話役です)

1. すみよっさん

6分45秒

増池 茂さん

成人式当日の住吉神社。ちかごろの正月は和服で歩く女性はあまり見かけないが

「成人式は振袖で」というのが多いと聞いて成る程と思った。彼氏を伴って神前で手を合わせる娘たち。耳にピアス。そのぎこちなさを捉えていて面白いが、もうすこしアップが必要かなと思った。太鼓橋をおそるおそる渡る人々を望遠で撮るポジションも良かったが、近くで足元をねらう根性は…。やっぱりこれは難しいことか。すだれ状に結ばれたおみくじがロングで2カット。これもアップはない。要するにかんじんな見せ場でもう一步の突っ込みの足りないのが惜しい。

2. 奈良の鹿たち

9分20秒 有村 博さん

普段平和に暮らす鹿たちも秋は繁殖の季節。とくに雄鹿は気が荒くなって危険と言うので毎年この時期に角切り行事が行なわれるが、この作品は大部分がそのときの模様で構成されている。入口で入場を待つ観光客の長蛇の列。太鼓の音とともに勢子が逃げまわる鹿の角めがけて縄を投げる。角に綱をかけられてあばれる鹿。勢子がロープを引き、じりじりと柱の根元に引き寄せる。いっせいにとびかかる勢子たち。ねじ伏せられた鹿の角を神官が鋸で切り落とす。と、まあこれが角切りの流れだが、結構長い。動きがあるから退屈は避けられたが、同じような場面を何度も繰り返すのはいかなものか。題名が角切りを指すものではないから、作者が日頃撮り貯めた鹿の生態をもっと全面に出しても良いのではないか。

3. ネパール紀行 僧院にて

9分0秒 西村光雄さん

ネパールを取材した作品はこれで何作目だろう。そのひとつひとつにテーマが際立っているからこの作者には頭がさがる。これは幼い頃から僧院に入り、修業を積む少年僧たちの記録。貧しさ故に口減らしで送られてくる子供が何人も居ると聞いた。だが、学習に励む彼らの表情に、そんな生い立ちを引きずる暗さは微塵も感じないのが救いだった。年長者と思われる僧へのインタビュー。作者の問いかけを彼はあまり理解できず、返ってくる彼の英語も作者には判りにくかったらしい。まるで禅問答のようなやりとりが相当時間づく。見る側としてはややいら立つ場面だった。

4. 中秋の明日香路

5分45秒 奥 宏さん

曼珠沙華、むくげ、桔梗、蕎麦などの花々が彩りを添える飛鳥川沿いののどかな風景。この日は休日か。レンタサイクルで駆ける人、放列を敷くおおぜいのカメラマン、その横を歩くのは団体さんだろうか。めったに作品を出さない作者だが、今までのものと少し違うな、と感じた。かつてはロング一辺倒だったような気がするが、ここではかなりのアップが用いられている。壁に犬養さんの額が飾られていたから万葉の歌に係わる記念館だろうか。そこでの催しかどうかは不明だが、中秋の名月の下で高松塚の飛鳥美人と同じ衣裳の女性たちが演奏する万葉歌は音声をあとから張りつけたのか、画面が手や口の動きに合っていなかった。

5. 米原稚児歌舞伎

8分0秒 玉井 均さん

長浜の曳山まつりとほぼ同じものが米原に現存するのをこの作品で知った。ただ長浜は12基（そのうち毎年4基が交替で公演）もあるが、ここは何基だったのか説明はない。ノンナレーション。作品は曳山を引いてくるところから始まる。招き扇（と言うかどうかは判らない）を振る若衆の掛け声で賑やかに宮入り。境内に定着のあと、舞台上で披露された子供の熱演をみごとに描いている。観客の表情の捉え方もすばらしい。長浜ほどの知名度がないのか、見る人は少ない。それだけ撮影に集中できたのだと思う。しかし、かつて玉井さんの「長浜の曳山まつり」という内容の充実した名作があっただけに、少々もの足りなさも残った。

6. クリスマス マーケット

4分0秒 安居良枝さん

空中庭園がある梅田スカイビルで催されたクリスマスイベント。夜、さまざまなイルミネーションとライトアップが楽しい雰囲気醸し出している。「格安のメリーゴーランドに乗ったはいいがスピードが早すぎて降りたら目が回った」のナレーションで電飾のツリーがぐるぐる回転する画面。このように自身が体験したエピソードを面白おかしく実像にするのは作者の特技かも知れない。ハイデルベルクを模したと言う

が、本場のクリスマスマーケットを知る筆者がどこか淋しい気がするの、人が少ないせいか、それともただ写ってないだけだろうか。

7. 鹿と人と

7分55秒 安居利次さん

鹿は家畜としてなじまない。本来は野性だが、奈良では春日大社の使いとして古くから人間と共存してきた。観光客に愛嬌をふりまくのは、長い年月のあいだに環境に順応するよう一部のDNAが組み替えられているのだろうか。だが雄鹿は繁殖期には本能で行動する危険な動物、というわけで昔から秋の行事として角切りが行なわれてきた。角は他の雄との闘争の具、雌鹿に対する威嚇の象徴だが、ときには人間にも危害をおよぼすという。角を失なって雌を追いまわす雄鹿の姿は、いかにもみすぼらしい。頭を木にこすりつけて無い筈の角を研ぐしぐさは哀れさえ感じる。これも奈良の町が観光で成り立っているかぎり仕方がないのだろう。以上が作者の主張する作品の概要だ。この作品は丹波篠山ビデオコンに入選された。

8. 久美浜へ

6分10秒 江村一郎さん

トンネルを抜けると夜明けの海岸だった。雪が降る漁港。繫留されているイカ釣り船の電球ごしに飛び交うかもめ。ここらはいかにも江村さんならではの映像。しかし小さな雪だるまがおなじ構図で2回出てきたのはなぜだろう。そして突然ムードが変わり、女の子の呼び込む姿と魚のみやげ物屋でガラリと並みの映像になってしまった。最初のシーンは車だったが、ラストは電車が去って行く風景。作者がときどきみせる構成の荒っぽさか。これも江村作品の魅力のひとつと言えなくもないが。

9. 大河アマゾン紀行

13分30秒 上総修一郎さん

ブラジルのペレンからアマゾン川を遡りマナウスまで、豪華客船「飛鳥」での航海記。河口を示すブイが浮かんでいたが、我々には大海原にしか見えない。途中パイロットの交替とか写真家のエピソードなども添えられているが、大部分は単調な水面と密林の岸辺が延々と続くだけ。それで13分以上もなんとか保たせたのは作者の印象

を主としたナレーションと随所に見られたテロップだろう。よくぞこれだけ資料を集めたものと感心する。作者はこれでも切り詰めたのだと言うが、やっぱりまだ長い。変化の乏しい岸辺をもう少し省略することをお勧めしたい。

10. 今宮十日戎

5分20秒 那須典彦さん

失礼かもしれないが、那須さんが人で埋まる“えべっさん”を撮ったとは以外だった。それも芸妓や有名人たちが乗る宝恵駕籠も密着取材しているから驚きだ。冒頭から綺麗どころをアップでねらったかつてない撮り方。とくに福娘の超アップには度肝を抜かれた。「ただきれいに撮っただけや…なにもええことあらへん」がこの人の口癖だが、あのひとごみのなかをブレもなく“きれいに”しかも超アップをこれだけ連続して撮れるとは…。やっぱりこの人は、ただものではない。

11. クリーン作戦と自転車教室

11分30秒 岡本至弘さん

作者のお子さんが通う高井田東小学校区。早朝から親子が総出で街頭のゴミ拾い活動。それが終わると校内で焼きそば、金属のボールを転がすベタンクと称するゲーム、9枚の板をボールで打ち抜くストラックアウト、屋内でソフトバレーボール、と盛り沢山。そのあと警察官の指導で自転車の操縦訓練。子供たちがヘルメットを着け、乗り慣れた大人でも難しいコースに挑む、といった内容。どうやら自転車がメインらしいが、それならいっそのこと、それだけに絞って作品にすればよかったのではないか。原本は長編で、例会用に再編集されたものと思うが、自転車以外はどれも中途半端な印象を拭えない。

■今月のインターネット作品

西村光雄さんの「ネパール紀行 僧院にて」です。

■インターネット情報

ネット版ニュースをご覧ください。

■投稿お願い

エッセー、コラム、紀行等なんでも結構です。皆さんからの投稿を期待しています。分量は400字詰め、2～3枚程度。